

**新聞が分かる
おもしろさ**

福島市 山田 美桜さん
 金合川小5年

私の祖母は、畜産業で休みもなく、一生けん命牛のお世話をして、牛を育て肉を売る仕事をしている。
 私は、「高品質 上がらぬ価格」という新聞記事を見つけた。そこには、「福島県の牛肉は安全でも、放射性物質があると、高く売れず価格が上

年も前の出来事なのに、まだ風評被害が残っているのと、それでも祖母ががんばっている姿を思うと心がとてもしろさだ。
 新聞には、自分の分からない情報がいっぱいあって、分からない言葉を父や母に聞いたり、調べたりして覚えて分かるようになることがとてもおもしろいと思った。
 これからは、いろいろな情報がついている新聞を自主学習に利用したり、積極的に活用していきたいと思う。

**新聞を読み
輝く娘の目**

母 山田 薫さん
 やまだ かおる

小学校の授業で、外国産と国産の牛肉の違いは、実際に牛の肥育をし

ている祖母にもわからない所を電話で聞いたりして徹底的に調べていた。
 「Jーちゃん達が一生懸命に育てた牛は、福島県産だというだけで値段が低くなってしまっている」と。私が何気なくそう伝えたとき、娘は目を丸くして、「なんで？」とすぐに食い付いてきた。娘が二歳のときに原発事故があったこと、それから七年以上過ぎても福島県産牛を避ける動きがあることを偶然にも連載してあった「風評の現場」県産牛を巡る事情」という記事を一緒に時間をかけて読み砕いていった。
 また、新聞に書いてある難しい記事がわかるようになった。新聞に書いたような新たな扉を開いた瞬間だと思った。

「牛肉の需要が増えるようになった満足感と達成感、そして今度は自ら調べてわかるようになったことを私に伝えたい」というような欲求も出てきたようであった。
 祖母が丹精込めて育てた身近にいる牛が、高い評価を受けつつも福島県産であるというだけで、価格には思ったほどつながないという現実、検査をして安全が確認できているのになぜ？という疑問は更に深まったようであるが、「新聞っておもしろい！」と聞いて私を見た娘のキラキラ輝く目が、新聞という新たな扉を開いた瞬間だと思った。